令和５年度　第４回　学校運営協議会　記録

Ｒ６．２.13（火）13:30～15:30

※外部参加者（学校運営協議会委員）
　木下清史氏（三方原地区根洗町自治会長）
　堀内　剛氏（浜松市社会福祉事業団　浜松市発達医療総合福祉センター
　　福祉センター所長）
　加藤久貴氏（弁護士法人　リコネス法律事務所　弁護士）
　山田浩昭氏（静岡県総合教育センター　専門支援部特別支援課　特任教官
　　前浜松特別支援学校長）
　松本浩一氏（西部特別支援学校 PTA 会長）
※校内参加者　校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、
　　訪問教育主任、教務課長、総務課長

＜学校運営協議会＞
１　開会の言葉
２　校長挨拶
３　協議
　(1)学校評価
　　【全体（学校自己評価・保護者アンケート結果)】
〇事後も含めた緊急時の対応力向上
Ａ委員　：評価自体は目標を達成している。今回の能登半島地震は福祉避難所がほとんど開設されなかった。また、障害を持っている人が避難所にいないことが多かった。
Ｆ委員　：障害を持っている人は、避難所にいられず、自宅に避難していたようである。
Ｄ委員　：避難所がどこにあるのか、確認する。
Ｂ委員　：電源、食事等、細かい所まで考える必要がある。
副 校 長：電源、食事共に蓄えはある。福祉避難所としての動きの確認も行っていく。
委員一同：評価としてはＡで良い。

〇すべての児童生徒が体調を整え、気持ちよく生活できるための取り組みの充実
Ｃ委員　：Ｄと評価した職員の「ほとんど目標を達成することができなかった」と「該当外」の割合を知りたい。
教　　頭：Ｄは「該当外」が全員で、「ほとんど目標を達成することができなかった」教員はいない。
委員一同：評価Ａで良い。

〇多様性を認め合い高い人権意識をもった児童生徒と教員
Ｃ委員　：「他の教員の発言について厳しい意見が出ている」のはどういうことか。
教　　頭：教員同士、それぞれの思いがぶつかり合うときに厳しい言葉遣いになってしまうことがある。

Ａ 委員：身体拘束などの基準も厳しくなっている。
副 校 長：講習会を開くなどして対応していきたい。
校　　長：コンプライアンス委員会もあるので、個々が意識を高めていきたい。
委員一同：評価Ａで良い。

○「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり
訪問主任：子供たちの実態、評価、変容、課題などを「まるっとシート」を使ってまとめ、授業作りに活用している。
Ｄ委員　：「PDCA サイクル」のＣ－Ａをきちんと行っていることが良い。
委員一同：評価Ａで良い。

○教員の専門性向上
Ｄ委員　：中堅職員は細かいところを伝えていけると良い。
教　　頭：今年度は OJT でペアリングをして、若手と中堅が組むようにしていた。来年度は「OJL」を用いて、対等な学び合いをしていきたい。教員一人一人が主役となる組織にしていきたい。
Ｃ委員　：ペアが固定されていて窮屈な部分もあったと思うが、若手としては担当が決まっている方が良い場合がある。分からないことが分からない場合もある。
副 校 長：初任者については、担当の指導者がつく。
Ｆ委員　：ある程度分かりやすい指針があると良い。今の時代は、仕事の価値観などが昔と違う。
委員一同：人権的なことも関わってくる。委員としてもＢで良い。

○将来の姿を見据え、個の力を最大限に生かすためのキャリア教育の実践
委員一同：評価Ａで良い。

○ICT の活用
Ｆ委員　：ICT をうまく使えば、子供たちの自己表現が増える。ぜひ使ってほしい。
Ｃ委員　：88％では少し低いように思えるが、成果目標を達成しているので評価はＡでよい。
委員一同：評価Ａで良い。

○各機関との円滑な連携と情報発信
Ｆ委員　：COCOO をうまく活用していきたい。アンケートなど便利である。
委員一同：評価Ａで良い。

○地域の特色や自然環境に目を向けた学習の充実
Ｃ委員　：いい取り組みをしている。今後、どうしていくかを考えていきたい。ボランティアや交流校の児童生徒にアンケートを実施してみてはどうか。
委員一同：評価Ａで良い。

○地域に根付いた学校づくり
委員一同：評価Ａで良い。

○風通しの良い環境づくり
Ａ委員　：いろいろな年代の人のモチベーションを上げることは、とても難しい問題である。どの業界でも課題であるが、組織として理解しながらやれることをやっていくしかない。
Ｆ委員　：評価しにくいが、Ｂは妥当ではないか。
Ｃ委員　：相談できる人と、なかなか相談できない職員もいる。相談できる環境を作っていってほしい。
教　　頭：相談しにくいと感じる教員をフォローしていく。
委員一同：難しい問題だが、委員としても評価Ｂで良い。

○学校運営課題の解決に向けた組織的な取り組み
Ａ委員　：数値的に低いが、課題はどのようなところだったのか。
教　　頭：プロジェクトについては、ゴールを明確にした方が良かった。教育課程のプロジェクトについては、今年度は課題の整理を行った。次年度以降、研修も取り入れながら教育課程の検討を進めていく。
Ａ委員　：成果目標の難易度が高かったかもしれない。
委員一同：Ａでも良いのではと思うが、目標数値が高く設定されている。Ａに近いが、評価はＢで良いと思う。

○指導の充実に向けた業務の整理・精選
Ｃ委員　：会議の精選がどうやって行われていたのか、具体例を知りたい。
教　　頭：情報教育課については、定期の課会で話し合いを行うよりは、機器のトラブル対応等をタイムリーに行う方が効率的であった。メールでの情報共有も行い、学校全体の円滑なICT環境整備につなげた。
Ｃ委員　：何をすれば授業準備に必要な時間を確保できるのか、分析することが必要である。
Ｂ委員　：仕事のやり方は、いろいろな考え方がある。指導に関することは、一番大事なことである。忙しさだけが増えないよう、軽重を付けてやることが大事である。
教　　頭：年間の個人の業務量を記載し、主任等が把握できるようにした。来年度は、授業時間を工夫していきたい。
Ｃ委員　：単純に授業準備にかかる時間が増えれば良いわけではないと思う。業務の洗い出しをして、効率化をしていきたい。
教　　頭：学年と類型の二つの話し合いが必要になってくるため、他校に比べてどうしても時間が必要になる。
委員一同：来年度も改善していくということで、評価Ｂで良い。

○周年行事に向けて
委員一同：評価Ａで良い。

【各学部のあらわれ】

(2) 令和６年度の学校教育目標
委員一同：良い。

＜コンプライアンス委員会＞
風通しの良い職場・・・職員間で話し合う⇒意見の言いやすい職場づくりを目指す。
児童生徒対象性被害アンケート結果・・・被害者なし。
心理的安全性職員対象アンケート・・・相談しやすい雰囲気変わりなし⇒課題あり
働き方改革・・・時間外在校等時間が減ってきていて良い方向に向かっている。
人権意識・・・チェックシートや学年会での話し合いを通して高くなってきている。

（変更）
不祥事根絶取り組み計画の実施報告
７月・・・自動車事故の研修を追加実施
12 月・・・虐待防止研修とアンガーマネージメント研修を追加実施。

Ｃ委員　：前半との比較ができていて良い。
良くなってきているのは良い。今後も頑張ってほしい。
Ｆ委員　：年代による考え方の違いがある。移行期間のため難しいが、気を付けて頑張ってほしい。
Ａ委員　：風通しの良い職場づくりが根本である。引き続き取り組んでいってほしい。
Ｂ委員　：「明るく優しい先生」になってくれれば良いと思う。